

教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 多様な学習者に配慮して「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法を理解する。
- 2 学習や学校生活における様々な場面に対する対応方法について理解する。
- 3 授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し、活用できるようになる。

【授業の展開計画】

授業の概要

まず、教育における方法論的な立場から、教育方法の歴史や組織面(形態)及び改革等について学ぶとともにその成果の評価について学習する。

次に、学習指導案を作成するために必要な多面的な視点をもとに、学習指導案を作成するための知識と技術を習得する。

さらに、教育効果を高めるために、各種情報機器の必要性を理解するとともに、その有効活用ができる知識と技術を習得する。

授業形態は講義とするが、ペア等によるディスカッションを随所に取り入れ、特に、資料(動画や図表等)から読み取る目を育てることに力点を置く。

授業計画

第1回：授業のねらいと展開の方法

第2回：教育方法の歴史

第3回：教育方法の類型と特質

第4回：教育方法の改革と課題① 学力形成の方法論

第5回：教育方法の改革と課題② 学習の形態と、教師と子どもの関係性

第6回：教育方法の改革と課題③ 学習の成果とその評価

第7回：学習指導の実際① 学習指導案作成の手順と目標設定

第8回：学習指導の実際② 指導計画と本時のねらい

第9回：学習指導の実際③ 授業準備と学習活動における指導上の留意点

第10回：学習指導の実際④ 思考の流れを育てるための学習展開の方法

第11回：教育情報機器の活用① 教育情報機器の例とその効果

第12回：教育情報機器の活用② 五感に訴える資料の条件

第13回：教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法

第14回：具体的な場面における指導方法の実際①(生徒指導や生活に関する指導)

第15回：具体的な場面における指導方法の実際②(健康や安全に関する指導)

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%、課題提出20%、期末試験40%で評価する。

再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料(学習プリント)を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

生徒指導論

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 要件外

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 生徒指導の意義や原理を理解する。
- 2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
- 3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生徒指導の今日的な意義と課題
2	教育課程における生徒指導の位置付け
3	各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
4	集団指導・個別指導の方法原理
5	生徒指導体制と教育相談体制
6	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
7	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
8	児童生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
9	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
10	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
11	生徒理解のための方法と技術
12	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携
13	進路指導の内容と計画
14	キャリア教育と生徒指導・進路指導
15	コミュニケーションと生徒指導—子どもの自己肯定感を高めるために

【履修上の注意事項】

授業内に課される活動には、積極的に参加をすること。
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（60％）、小レポート（40％）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、三津家 律子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいのか説明できる。

【授業の展開計画】

古賀：養護教諭として公立学校勤務経験
三津家：スクールカウンセラーとして公立学校勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方、教育相談の位置付け、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎Ⅰ（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎Ⅱ（個別的理解とその方法）（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく(60分)。授業の復習を行うこと(60分) 毎回、授業の振り返りと質問等を最後にかかせるが、内容を確認し、次時に返却する。質問に対しては授業の最初に応える。

【評価方法】

レポート等20%、試験80%により評価

【テキスト】

特になし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

「改訂版心理臨床の基礎」小野けい子編著 放送大学教育振興会
「学校でフル活用する認知行動療法」 神村栄一著 遠見書房